

JFPI REPORT

No.193
2025 OCTOBER
10月号

2025年「9月 印刷の月」講演会・記念式典・懇親会

40周年特別表彰

役員永年功労者 3名、事業永年功労者 2名、永年功労団体 10団体

日印産連表彰

印刷功労賞 11名、印刷振興賞 17名、特別賞 1団体

40周年記念講演会

「印刷文化—印刷メディアの可能性」 小説家 京極夏彦氏

- 2** **2025年「9月 印刷の月」講演会・記念式典・懇親会を開催**
40周年特別表彰5名・10団体、印刷功労賞11名、印刷振興賞17名、特別賞1団体が受賞
40周年記念講演会「印刷文化ー印刷メディアの可能性」 小説家 京極夏彦氏
- 9** **日印産連40周年特別表彰・日印産連表彰 受賞者の紹介**
役員永年功労者／事業永年功労者／永年功労団体
印刷功労賞／印刷振興賞／特別賞
- 20** **新たなビジネス事例**
印刷イノベーション最前線! 第2回
お米の生産・販売事業で新市場を開拓し地域文化に貢献 株式会社 四ヶ所
- 22** **プライバシーマークニュース**
2024年度個人情報に関する事故報告(2)／プライバシーマーク付与事業者のご紹介
- 24** **グリーンプリンティングニュース**
2025GP環境大賞等表彰 GP環境大賞／GPマーク普及大賞／GP資機材環境大賞
- 28** **「下請法」は「取適法」へ**
- 30** **JFPI最近の活動から**
日印産連40周年記念トークイベント
- 32** **会員ニュース**
印刷工業会／全印工連／日本フォーム工連／ジャグラ／全製工連／全日本シール／
全国グラビア／GCJ／全日本スクリーン・デジタル／全日本光沢化工紙
- 39** **JFPI-NOTE(2025年7月～9月)**
- 40** **事務局だより**

設立40周年記念 2025年9月印刷の月 記念式典

一般社団法人 日本印刷産業連合会



2025年「9月 印刷の月」講演会・記念式典・懇親会を開催

日印産連40周年特別表彰 [役員永年功労者(3名)、事業永年功労者(2名)、永年功労団体(10団体)]

日印産連表彰 [印刷功労賞(11名)、印刷振興賞(17名)、特別賞(1団体)]

一般社団法人日本印刷産業連合会は(磨 秀晴会長)、2025年「9月印刷の月」記念式典を、9月11日(木)東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「鶴の間」に於いて、経済産業省をはじめとする各界からのご来賓や会員10団体、関連業界から多数の出席者を全国各地から迎えて開催した。今年は本木昌造氏没後150年にあたり、且つ日印産連設立40周年という節目の年となる。

記念式典に先立ち日印産連設立40周年を記念し、「印刷文化-印刷メディアの可能性」をテーマに、印刷博物館館長 京極夏彦氏による講演会が行われた(別掲P8)。

また本年は、従来の日印産連表彰「印刷功労賞」「印刷振興賞」「特別賞」に加え、40周年特別表彰「役員永年功労者」「事業永年功労者」「永年功労団体」を設け表彰を行った。受賞者を代表して40周年特別表彰を受賞した浅野 健氏が謝辞を述べた。

授賞式後に行われた懇親会は、堆 誠一郎日印産連 副会長の開会の挨拶に続き、印刷インキ工業会 横瀬幸弘副会長の乾杯のご発声によりスタートした。活気に包まれる中、参議院議員牧山ひろえ氏、前衆議院議員山田美樹氏のスピーチや数多くの祝電が披露されるなど、会話は途切れることなく印刷業界発展への親睦を深める場となった。中締めには会員10団体の会長が壇上に上がり、全日本シール印刷協同組合連合会 田中祐会長の挨拶で懇親会は閉会した。

磨会長あいさつ

記念式典は一同が起立、国歌斉唱によって開会した。開催にあたり主催者を代表し磨秀晴会長が登壇し挨拶を行った。

「本日は各界より多くのご来賓の皆様にご参加いただき、またご公務多忙の中、経済産業省 商務情報政策局より江澤正名 商務・サービス政策統括調整官をはじめ文化創造産業課の皆様にご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。

あわせて会員10団体の皆様ならびに関連業界の皆様には、日頃より格別なご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年も皆さまの多大なるお力添えのもとに「9月 印刷の月」記念式典を開催できますことに心から感謝申し上げます。

さて、本式典では例年、印刷産業の発展と印刷文化の昂揚に大きく貢献された方々に対しまして、「日印産連表彰」を行っております。設立40周年を迎えた今年には従来の表彰に加え、永年にわたり業界のためにご尽力いただいた方々に、「40周年特別表彰」を贈呈いたします。受賞者の皆様には、



主催者を代表して挨拶する 磨 秀晴会長

心よりお祝いを申し上げます。

先ほどの講演会では印刷博物館の新館長に就任された京極夏彦先生にご登壇いただき、「印刷文化」をテーマに、印刷にまつわる技術やノウハウがこれからの社会にとっても大きな価値と可能性を持っていることを、力強くお話いただきました。印刷に深く関わる我々に、新たな気づきをいただくとともに未来に向け新たな挑戦をする意欲を呼び覚ます講演であったかと思えます。

日産連は、印刷産業の新しい価値を創造し、我が国の暮らしや文化を支える産業として、更なる発展を目指して、会員10団体と力を合わせ、サプライチェーン全体でのパートナーシップの構築と事業領域の拡大に向けた共創を推進してまいります。これからも皆様の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます」と述べ、結びにご来賓の方々や会員10団体と関連業界の今後の発展と健勝を祈って挨拶とした。

来賓祝辞

壇上のご来賓紹介に続き、来賓を代表して経済産業省 商務情報政策局 商務・サービス政策統括調整官の江澤正名氏から祝辞が述べられた。江澤調整官は、設立40周年・記念式典開催へのお祝いの言葉のあと、「印刷産業は、商業印刷や出版印刷をはじめ私たち身の回りの多くのものに関わっている身近で高度な産業です。その地域の顧客のニーズや昨今の産業構造にあわせた多様な事業展開によって、多くの製造業、サービス業、サプライチェーンにおける重要な役割と位置を占めると同時に、国民生活を支える重要な産業であると考えています。その中で貴連合会は、傘下に10団体、会員企業約5,866社を束ねる印刷業界の

中心として、紙の印刷産業だけでなく食品産業、梱包産業、建材、ラベル、電子部品、さらにコミュニケーション制作の企画・実行、映像、ウェブサービスと様々なコンテンツ制作に、印刷テクノロジーをベースとして事業領域を拡大するなど、多岐にわたる印刷産業の振興の要となる組織だと思っています。

経済産業省としても今年度、印刷設備の更新にご使用いただけるような施策を様々用意しておりまして、省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金(省エネ補助金)、さらに人手不足に対しては省力化を支援する中小企業省力化投資補助金(省力化補助金)など、省力化投資を支える支援策を提供しています。引き続き皆様の取り組みを最大限に支援して参りたいと考えています。

国内では数年にわたるDX、GXの成長投資が芽吹き、名目GDPは初めて600兆円の大台に乗せました。こうした流れを確実なものとして、賃上げと投資が牽引する成長型の社会へと転換をしていくためにも、生産性を向上させ物価高に負けない賃上げを実現し、これを更なる投資と消費に繋げていかなければならないと考えています。

そのためには是非お願いしたいのが価格転嫁、取引の適正化ということです。今月は印刷の月間であるとともに、価格交渉促進月間でもあります。印刷業界においても価格転嫁のニーズは高いはずで。まずは価格交渉のテーブルに着き、委託発注元と議論いただくことだと思っています。そうした場を通じて発注元から積極的に賃上げの流れを作っていく取り組みをお願いしたいと思います。

全国の各地域に根ざして事業展開されている印刷業界の皆さまの発展なくして、日本経済の成長はないと考えています。今後も地域から日本を元気にしていただくことを期待しております」と述べた。



来賓祝辞 江澤正名経済産業省 商務・サービス政策統括調整官

2025年度 日印産連表彰・授与式

日印産連設立40周年にあたる本年度は、「日印産連40周年特別表彰」「印刷功労賞」「印刷振興賞」「特別賞」の4賞の表彰となり、プレゼンターは麿会長が務めた。

役員永年功労者



役員永年功労者 3名

■日印産連40周年特別表彰

日印産連の活動を通じて印刷産業の振興に尽力した功労者を広く顕彰するものである。

【役員永年功労者】

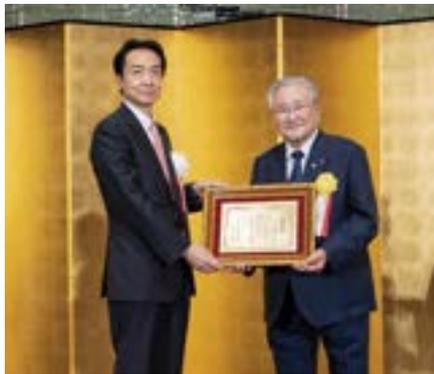
日印産連役員を20年以上務めるなど特に顕著な功績を残された役員永年功労者に、田島一彌氏(株式会社久栄社)、下谷隆之氏(株式会社千修)、浅野 健氏(株式会社金羊社)の3氏が表彰された。

【事業永年功労者】

事業永年功労者には、印刷サービス・グリーン基準の制定や2006年のグリーンプリンティング認定制度の創設から現在に至るまで審査員を務め、印刷業界の環境保全活動に尽力いただいた須田治樹氏と、プライバシーマーク審査センター設立時より審査委員長として個人情報保護の推進と制



田島一彌氏 (代理 田島久義氏)



下谷隆之氏



浅野 健氏

事業永年功労者



事業永年功労者 2名



須田治樹氏



牧山嘉道氏

永年功労団体



永年功労団体 代表者



永年功労団体 代表
日本印刷産業機械工業会 森澤彰彦氏

度の信頼性向上のため尽力いただいた牧山嘉道氏に表彰状が授与された。

[永年功労団体]

賛助会員として長年にわたり日印産連の事業活動を支えていただいた10団体に感謝状が贈られた。各団体の代表者10名が登壇し、一般社団法人日本印刷産業機械工業会 森澤彰彦氏が代表して感謝状を受け取った。(別掲p10-11)。

■印刷功労賞

団体運営を通じて印刷産業の発展向上に寄与した方に

対して授与される印刷功労賞には、11名(別掲p12~14)が表彰され、株式会社白橋 代表取締役社長 白橋明夫氏が代表して表彰状を受け取った。

■印刷振興賞

業務の進歩改善に寄与された方、多年にわたり業界の指導に貢献された方に贈られる印刷振興賞には、17名(別掲p15~17)が選ばれ、二組に分かれ登壇し賞状の授与が行われた。北陽ビジネスフォーム株式会社 代表取締役会長 永野修一氏と株式会社共栄メディア代表取締役社長 錦山慎太郎氏がそれぞれを代表して表彰状を受け取った。

印刷功労賞



印刷功労賞受賞者の諸氏



印刷功労賞 代表 白橋明夫氏

印刷振興賞



印刷振興賞受賞者の諸氏 (1組目)



印刷振興賞 代表 永野修一氏 (1組目)



印刷振興賞受賞者の諸氏 (2組目)



印刷振興賞 代表 錦山慎太郎氏 (2組目)

特別賞

■特別賞

特別賞は各種活動を通じて印刷産業界の地位向上に寄与された団体・個人等に贈られる。本年は、「紙」の良さを啓蒙するイベント「ペーパーサミット」を毎年開催し、印刷の可能性を業界以外に広く周知する活動を続けている大阪府印刷工業組合（理事長 高本隆彦氏）が受賞した。



特別賞 大阪府印刷工業組合



特別賞 高本隆彦理事長

■受賞者代表謝辞

日印産連40周年特別賞を受賞した浅野 健氏が受賞者を代表して謝辞を述べた。

「私、振り返ってみますと1972年に父が創業した印刷会社に入社してからの25年間ほどは、自社の営業からしか印刷業を認識する方法がなかったんです。他社のことは知りませんでした。ところが業界団体のお手伝いをさ



謝辞を述べる浅野 健氏

せていただくようになりますと、自分が世の中で一番苦勞していたのではないかと思っていたのに、自分より苦勞している方がいたじゃないですか……。ほかにも様々なことを教えていただきました。特に日印産連の歴代の会長、専務理事の方々は素敵な方々ばかりで、本当にいいご縁をいただきました。実際の営業では知り得ないことを教えていただいた—これが財産ですよ。

つい最近もご縁があって長崎と大阪で開かれた本木昌造さんの没後150年の式典に行き参りました。大阪の会場だった四天王寺には本木昌造さんの立像がありました。戦時中の金属供出があったので戦後ダウンサイズされて再建された銅像ですが、驚いたのは本木さんの像は二本差なんですよ。考えてみれば武家の出身だから当たり前ですが、これまで顔写真だけを見てきたものですから驚きました。それから地元の方に、四天王寺は聖徳太子が開いたことや天王寺地区に寺はないことも教えてもらいました。これらの真偽はこれから調べようと思います。そうしてこのご縁によって秋の訪れとともに私の教養は深まることになるわけです。この“ご縁”というのは貴重です。特に東京生まれ東京育ちの私

にとって、全国各地の方とのご縁は本当にありがたいものだと思います。

これからの印刷産業をリードしてくれる若い人たちも目の前にいらっしゃいますが、安心してください。京極先生もおっしゃっていたように、日本の印刷産業は大丈夫ですよ。あなたたちがいるのだもの…。この後の懇親会でまた皆さんとご縁を紡ぎたいと思います。

改めて、受賞者の方々とご一緒に日印産連の皆様にご挨拶を申し上げ、感謝の言葉にしたいと思います。本日はありがとうございました」と、謝辞を述べ、会場から祝福を込めた温かい拍手が送られた。

懇親会

記念式典が滞りなく終了したことが告げられ、懇親会は日印産連 堆 誠一郎副会長の開会の挨拶によってスタートした。「日印産連設立40周年おめでとうございます。また本日表彰を受けられた皆様、おめでとうございませう。

印刷産業は本木昌造さんから本格的に始まって現代に至っているという先ほどの京極先生のお話は、“お前たちもがんばれ!”と、とても勇気づけられる内容だったと感じました。今



開会にあたり挨拶する堆 誠一郎副会長



印刷インキ工業会 横瀬幸弘副会長による乾杯のご発声



牧山ひろえ参議院議員



山田美樹前衆議院議員



もIT、IoT、AI、生成AIの進化とあるように、私たちの業界を取り巻く環境の変化は昔からあって、それらをクリアして来たからこそ今の業界があるのです。これからもがんばっていきたいと思います」。

続いて印刷インキ工業会の横瀬幸弘副会長が乾杯のご発声を行った。「昨年度、日印産連の皆様には、印刷インキ工業会が取り組む物流2024年問題、また電子取引の推進、各種化学物質への規制対応など印刷業界を取り巻く様々な課題に対し、深いご理解と多大なるご協力を賜り、ここに改めて感謝申し上げます。今後さらに我々を取り巻く環境は更に変化していくことが予想されます。デジタル化や環境課題など多くの問題に直面しておりますが、これは同時に新たなビジネスを生み出す大きなチャンスでもあります。私たち印刷インキ工業会も印刷業界に携わる一員として皆様と共に力を結集し、この大きな変化を乗り越え、新たな時代に対応した付加価値を提供して参りますので、今後ともご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます」の言葉のあと、一同グラスを手に

乾杯を唱和。談笑が続く会の中ほどには、参議院議員牧山ひろえ氏と前衆議院議員山田美樹氏から記念式典開催のお祝いと印刷業界の発展を祈るご挨拶をいただいた。

賑やかにフロアいっぱいに歓談が繰り返された会も終盤を迎え、日印産連の磨会長と10団体の各会長が壇上に紹介され中締めとなった。代表して全日本シール印刷協同組合連合会 田中祐会長から「先ほどの講演会では勇気づけられ、さらに発破をかけられたように感じました。印刷という技術の周辺を取って全て削ぎ落とし、そのコアバリューは何なのかを忘れずに掴んでいければ、どんな時代の変化や時流にも流されずにビジネスができるのだと強く思いました。また、日印産連が2030年に向けて取り組んでいるグランドデザインの再構築に関しても、素晴らしいヒントをいただけたと思います」とのご挨拶あり、三本締めで懇親会は終了した。



登壇した10団体代表の皆さま



全日本シール印刷協同組合連合会 田中 祐会長による中締め

40周年記念 講演会

印刷文化—印刷メディアの可能性

小説家 京極 夏彦氏



印刷は最初からデジタルだった

デジタルというのは総量を分割化して認識するというところで、アナログというのは総量を全体の量として把握することです。最初にデジタル化したのは言葉です。始め言葉はアナログである音＝声で発するしかなかった。それが文字というさらに補強する発明があったことで、より完成に近くなったわけです。つまり文字は言葉をデジタルとして徹底するためにできたものです。

しかし、情報を複製するには手書きで筆写するしかない時代が長くありました。そこに活版印刷という大量に複製する技術が生まれたんです。この技術の発明によって作られた概念、これが今の私たちの文化を創ることになるのです。デジタル化された情報は複製しても劣化しないし、情報は確実に複製できる。

この印刷というものが如何に私たちの生活文化を支えてきたかということに対して一般の方はあまりにも無自覚です。

メディアは変化する

石から布から紙へと変化しましたが、これはメディアの形が変わっただけで、やろうとしていることは同じです。今電子上でやりとりをしているPDFは、大昔に初めてデジタル化した人類の情報を、今やっと最善の形で使えるようになっただけです。メディアというのはそうやって変わっていくもので、インベーションは常に繰り返されています。

印刷はもともとデジタルだったのです。何を今さら焦る必要があるでしょうか。遙か昔からあった概念を時代のニーズに合わせて作り変えてきたのが印刷の歴史です。自分たちが時代遅れだと思っははいけません。常に印刷は時代の最先端を行っているんです。

これから先もどんどんメディアのあり方は変わっていくと予測されます。しかし、何千年と続くこの仕事がどれだけの技術革新と進化をしてきたのかを考えれば、今の紙媒体から電子媒体に移るなんていうのは、たいしたことじゃない。必ず対応する形ができてくるし、それに応じて業態が進化、発展していくだろうと私は考えます。

新しいビジネスモデルが生まれるには

日本における出版の文化を考えてみれば、出版社（版元）が本を作るために版木を彫って、本を作って売っていた。それが書店、出版社、取次、印刷・製本と分かれていって、今の流通システムを含めたビジネスモデルが出来上がったわけであって、元はひとつだったのです。ですから新しいメディアが生まれ、新しいビジネスモデルを作るのであれば、一丸となるべきでしょう。

印刷に関わる様々な業態・業種の総体としてこの日本印刷産業連合会はあるのだと思います。横のつながりを持ち互いを尊重し、新しい時代の新しいスタイルのメディアに合わせた印刷を作り、仕事として成立させることは決して不可能なことではない。必ず道は開けるはずですよ。

“印刷の明日は明るい”

印刷は私たちの暮らしに絶対欠かせないものだった。そして印刷という技術が、私たちの今の文化や科学技術や生活を創ってきた。そしてそれは今でも欠かせないものとしてある。それはこれから先も変わらない。メディアというものは変わるかも知れないけれど、印刷という概念自体は今後ずっと変わらないのだということを感じておいていただきたい。今のこの世界は私たちが作ったのです。そしてこれからの世界も私たちが創るのです。“印刷の明日は明るい”……印刷によって生を受け、印刷によって育ち、印刷をもって生業としている私の切なる願いでもあります。

京極夏彦氏プロフィール

1963年 北海道小樽市生まれ。

桑沢デザイン研究所、広告代理店、制作プロダクションを経てデザイン事務所を共同設立。1994年『姑獲鳥の夏』で作家デビュー。

日本推理作家協会賞、山本周五郎賞、直木賞、吉川英治文学賞等多数の文学賞を受賞。

2025年4月 印刷博物館 新館長に就任。

日印産連表彰受賞者の紹介

日印産連表彰は、長年にわたり印刷産業の発展に貢献された個人・団体に対して顕彰する制度で、「9月 印刷の月」記念式典において表彰が行われる。本年度は7月22日に開催された表彰選考委員会の審議を経て、同日のステアリング・コミッティで承認され、7月30日に開かれた第3回理事会にて決定された。

本年は日印産連設立40周年の節目にあたり、従来の各賞による表彰に加えて「40周年特別表彰」を設けた。40周年特別表彰 日印産連役員永年功労者3名、日印産連事業永年功労者2名、日印産連永年功労団体10団体に加えて、従来の印刷功労賞11名、印刷振興賞17名、特別賞1団体が表彰を受けた。

日印産連設立40周年特別表彰

◆日印産連役員永年功労者

日印産連役員(理事職以上)の在任期間が20年以上で、当会の運営に多大な貢献が認められる者

◆日印産連事業永年功労者

日印産連の事業活動(認定事業・調査研究・コンクール等)に多大な貢献が認められる者

◆日印産連永年功労団体

日印産連の賛助会員として、当会の運営に多大な貢献が認められる団体

日印産連表彰規定(抜粋)

◆印刷功労賞は次の各項のいずれかに該当する者に授与する。

- ①印刷産業界にあって団体運営を通じて印刷産業の発展向上に寄与した者
- ②その他、前項に準ずる者

◆印刷振興賞は次の各項のいずれかに該当する者に授与する。

- ①業務の進歩改善に著しく貢献した者、若しくは特に技術優秀な者又は優れた発明考案をした者
- ②多年にわたり後進の指導並びに業界指導に貢献した者
- ③その他、前項に準ずる者

◆特別賞は次の各項のいずれかに該当する者(団体を含む)に授与する。

- ①地域社会の諸活動を通じて地域の振興に貢献し、以て印刷産業界の地位向上に寄与した者
- ②福祉活動を通じて社会に貢献し、以て印刷産業界の地位向上に寄与した者
- ③その他、前項に準ずる者

日印産連設立40周年特別表彰

日印産連役員永年功労者

日印産連役員(理事職以上)の在任期間が20年以上で、
当会の運営に多大な貢献が認められる者



田 畠 一 彌

株式会社久栄社

所属団体: 印刷工業会・全日本印刷工業組合連合会

理 事: 昭和60年5月23日～平成6年6月14日(印刷工業会)

常任理事: 平成6年6月14日～平成10年6月14日(全日本印刷工業組合連合会)

理 事: 平成10年8月27日～平成14年6月14日(印刷工業会)

常任理事: 平成14年6月14日～平成23年6月8日(印刷工業会)

計26年間



下 谷 隆 之

株式会社千修

所属団体: 印刷工業会

理 事: 平成3年6月13日～平成20年6月14日(印刷工業会)

常任理事: 平成20年6月14日～平成26年6月11日(印刷工業会)

計23年間



浅 野 健

株式会社 金羊社

所属団体: 全日本印刷工業組合連合会・印刷工業会

副 会 長: 平成16年6月14日～平成20年6月14日(全日本印刷工業組合連合会)

常任理事: 平成20年6月14日～平成22年6月14日(印刷工業会)

副 会 長: 平成22年6月14日～令和4年6月16日(印刷工業会)

相 談 役: 令和4年6月16日～現在(印刷工業会)

計21年間

日印産連事業永年功労者

日印産連の事業活動(認定事業・調査研究・コンクール等)に多大な貢献が認められる者



須田 治樹

(旧)凸版印刷株式会社～グリーンプリンティング認定審査員

- リサイクル紙製商品研究委員会委員(平成11年～平成18年)
- グリーン購入検討会・GP推進部会委員(平成12年～平成27年)
- 環境対応協議会委員長(平成13年～平成17年)
- 環境優良工場表彰審査委員会委員(平成14年～令和元年)
- グリーンプリンティング認定審査員(平成19年～現在)
(グリーンプリンティング認定制度創設時より審査員を務める)



牧山 嘉道

リップル法律事務所弁護士、弁理士

(一財)日本情報経済社会推進協会(JIPDEC) プライバシーマーク審査委員会委員
日弁連・国際交流委員会委員長

- プライバシーマーク審査センター審査委員長(平成19年～現在)
(プライバシーマーク審査センター設立以来、審査委員長を務める)

日印産連永年功労団体

日印産連の賛助会員として、当会の運営に多大な貢献が認められる団体

- 印刷インキ工業会
- 環境保護印刷推進協議会
- 全国グラビア製版工業会連合会
- 公益社団法人日本印刷技術協会
- 一般社団法人日本印刷産業機械工業会
- 日本製紙連合会
- 日本洋紙板紙卸商業組合
- 日本洋紙代理店会連合会
- 一般社団法人日本WPA(日本水なし印刷協会)
- プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会

(五十音順)

印刷功労賞

富岡 忠司

共同印刷株式会社
常務執行役員
生活・産業資材事業本部長



印刷工業会

受賞理由

印刷工業会においては、2020年度から2021年度にかけて軟包装部会の幹事長を務め、業界内の情報発信や会員企業間の連携強化を推進し、印刷業界における包装事業の振興と発展に大きく寄与した。自社においては、包装事業部門において長年にわたり営業部門の責任者を務め、顧客ニーズを的確に捉えた提案活動を展開するとともに、新規市場の開拓や既存顧客との信頼関係の構築に尽力し、共同印刷の包装事業の拡大に大きく貢献した。

野口 晴彦

TOPPAN株式会社
専務執行役員
生活・産業事業本部長



印刷工業会

受賞理由

1985年の入社以来、パッケージ事業分野を中心に活躍し、秘書室長・中部事業部長等を経て2022年より現職。2012年より印刷工業会軟包装部会長を8年間務め、印刷業界における軟包装事業のさまざまな課題解決に尽力したほか、2023年より軟包装衛生協議会会長(25年より副会長)、2022年より紙製容器包装リサイクル推進協議会会長(現任)など要職を歴任し、わが国の包装業界の発展に大きく貢献している。

白橋 明夫

株式会社白橋
代表取締役社長



全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

平成28年度から令和6年度までの8年間、全印工連の常務理事、東京都工組副理事長・常務理事を、令和2年度から4年間、東京地区印刷協議会会長などの要職を務める。この間、全印工連において、組織共済委員会委員長として、「魅力ある組合づくり」を目指し、全国の組合員加入増強運動や各種共済制度加入促進キャンペーンを推進して大きな成果を上げるなど、印刷産業の発展向上に大きく貢献した。

土屋 勝則

音羽印刷株式会社
代表取締役社長



全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

平成26年から令和6年にかけて、全印工連常務理事、東京都工組副理事長・常務理事などの要職に就く。この間、全印工連教育研修委員会委員長として、経営者研修会や人材育成セミナーの企画・開催支援、印刷営業講座、印刷営業士認定試験などの制度教育事業の実施、オフセット印刷作業をはじめとする技能検定実施への協力など、様々な教育事業の推進に努め、現在の全印工連教育事業の礎を築いた功績は多大である。

添田 秀樹

TOPPANエッジ株式会社
相談役

日本フォーム印刷工業連合会



受賞理由

ビジネスフォーム業界のリーダーとして、TOPPANエッジにて要職を歴任し、営業のみならずグローバル事業や企画販促等で得た豊富な経験と知識を生かし、永年にわたり業界を牽引してきた。また、2024年には日本フォーム印刷工業連合会の会長、そして日本印刷産業連合会の副会長として、時代の変化に対応した構造変革に自ら取り組み、ビジネスフォーム業界の地位向上に寄与するとともに、団体活動を通じて印刷業界の発展に貢献した。

尾形 文貴

株式会社みつわ
代表取締役会長

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会



受賞理由

2008年から現在まで理事、監事、副会長を務める。「経営基盤確立委員会」の委員としてインターネット放送「ジャグラBB」を中心とした教育事業を推進。「環境対策委員会」「CSR委員会」等の委員および委員長を務め、通算10年間にわたり印刷会社の環境対応の啓蒙に尽力。2012年より2015年まで「個人情報保護委員会」の委員に就任、Pマーク制度普及に務めるなど、中小印刷業の経営品質向上に貢献した。

宮地 啓一

株式会社九秀製本ドットコム
代表取締役

全日本製本工業組合連合会



受賞理由

全日本製本工業組合連合会 副会長および福岡県製本工業組合 理事長、副理事長の要職を歴任。組合員の減少が続く地方組合の組織運営が困窮する中で、全国組合の事業運営を牽引している。2025年9月には全国大会福岡大会を開催実現し、地方小規模な工業組合ながら全国から組合員参加者を招き入れ、地域関連業界一丸となって成功裏に導くことで、今後の業界における新たなモデルを提示した。

坂本 研一

株式会社九州クラフト工業
会長

全日本シール印刷協同組合連合会



受賞理由

全日本シール印刷協同組合連合会副会長として3期6年務めて、地元九州シール印刷協同組合理事長を重任した。連合会技術委員の経験生かして、この間の九州協組では「工場長会（若手経営者）」を立ち上げ、自由闊達な活動を後押しして今の九州協組の礎を作った。この「工場長会」は全国の他協組にも刺激を与えていて、「組織の活性化」「シール印刷の技術力向上」に尽力された。

印刷功労賞

母里 圭太郎

株式会社 平野屋物産
代表取締役

全国グラビア協同組合連合会



受賞理由

13年間にわたり、九州グラビア協同組合の副理事長・理事長、12年間にわたり、全国グラビア協同組合連合会の理事・副理事長として組合運営に注力戴きました。また、若手組合員の先輩として啓蒙活動や新しい包材開発についても成果をあげられた。

田中 潤一郎

有限会社田中凸版
会長

日本グラフィックコミュニケーションズ
工業組合連合会



受賞理由

2009年より九州グラフィックコミュニケーションズ工業組合の副理事長として8年間組合活動を支え、各行事を通して組合のコミュニケーションを図る。2017年5月より理事長並びに日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会の副会長として組合活動全般を支えている。現在も会員数が減少する地区工組の現状をしっかりと捉えるとともに、全国組織の中でも副会長としての的確な意見を出し、今後の組合の在り方に対し積極的に発言し行動している。

中村 清泰

株式会社 東プリ
代表取締役

全日本スクリーン・デジタル印刷
協同組合連合会



受賞理由

約20年の長きにわたり、全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会の役員として連合会活動の円滑な推進に貢献した。また、2022年～2024年までは西日本スクリーン・デジタル印刷協同組合の理事長として、2025年に大阪で開催された全国大会の企画・準備に注力した。さらに、特許を取得した転写シートなど技術開発の重要性を業界の若手に積極的に啓蒙した。

印刷振興賞

猪野 正人

株式会社DNPグラフィカ
代表取締役社長

印刷工業会



受賞理由

1981年4月、大日本印刷株式会社入社。商業印刷の生産管理部門に従事し、2015年4月、株式会社DNPグラフィカ生産管理本部副本部長に就任。生産プロセスの最適化等に取り組み、2015年10月に取締役に就任。「人的資本ポリシー」を重視し、長期視点・人材育成・多様性の尊重・挑戦する文化の形成に尽力しつつマーケティング事業の業績確保に大きく貢献した。

木田 幸延

株式会社千修
執行役員
制作管理本部 本部長

印刷工業会



受賞理由

株式会社千修入社後、主に営業部門で営業部長、執行役員営業本部長として金融機関等の主要顧客を担当、業務内容のデジタル化の流れにも迅速に対応し、売上基盤の拡大に寄与した。その後、執行役員制作管理本部長として、制作進行管理のDX化にも対応しつつ、高品質な制作物を安定的にかつ迅速に供給する生産体制を確立するとともに、印刷技術の継承を主要テーマに後進の育成にも尽力している。

道用 雅浩

TOPPANエッジ株式会社
シニアアドバイザー

印刷工業会



受賞理由

1984年に凸版印刷(当時)入社以来、セキュア系事業を中心に活躍。印刷工業会においては、2020年より情報セキュリティ部会(旧 証券部会)部会長としてその活動を牽引し、次世代ICカードシステム研究をはじめ、新たなマーケットへの対応の前提となる新技術・知識の習得機会提供を積極的に推進するなど、セキュア印刷産業の発展に大きく寄与している。

南 敏之

日本製紙リキッドパッケージ
プロダクト株式会社
江川事業所 製造部長

印刷工業会



受賞理由

入社以来39年間、2工場において液体紙容器の印刷・製造業務に携わり、印刷技術向上とともに品質安定・操業改善に寄与している。グラフィア、オフセット及びフレキソ印刷機の操業経験があり、印刷に関する技術知見が幅広く、豊富であり、印刷機・製版・インキメーカーからの信頼が厚い。長年の卓越した技能と指導力をもって後進育成にも積極的に対応しており、事業所ひいては会社の成長にも大きく貢献している。

岩永 寛毅

有限会社三省堂印刷所
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会



受賞理由

令和2年からの5年間、全印工連理事、長崎県工組理事長として、業態変革事業や幸せな働き方改革などの全印工連各種事業を積極的に推進したほか、本木昌造顕彰会会長として印刷文化財保存に尽力し、業界発展に寄与した功績は多大である。

岩淵 均

関東図書株式会社
代表取締役

全日本印刷工業組合連合会



受賞理由

平成28年から令和2年の4年間、全印工連理事、埼玉県工組理事長の要職を務める。また、全印工連では、長年に亘り官公需対策協議会幹事を務め、中小印刷業界の主要な取引先である官公庁からの受注(官公需)に関する取引改善を進め、特に、知的財産権の保護活動に大きく貢献した。

印刷振興賞

筒井 善樹

筒井紙業印刷株式会社
代表取締役会長



全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

令和2年から全印工連理事および高知県工組理事長、四国地区印刷協議会副会長の要職を務める。また、平成26年から、組織共済委員会の委員を務め、組合員加入増強活動や共済制度加入促進キャンペーンの推進に尽力し、多大な成果を上げた功績は顕著である。

永野 修一

北陽ビジネスフォーム株式会社
代表取締役会長



日本フォーム印刷工業連合会

受賞理由

北海道フォーム印刷工業会の理事及び会員として、業界活動に積極的に参画し、地域の印刷関連事業の振興に尽力。技術向上や情報共有を通じて北海道印刷業界の発展に多大な貢献を果たしている。

福田 和寿

MCP株式会社
取締役製造本部長



日本フォーム印刷工業連合会

受賞理由

入社以来40年の長きにわたり、製造部門から営業部門まで幅広い分野でビジネスフォーム業界の発展に貢献した。また関東フォーム印刷工業会では、理事および副会長として団体の活動に積極的に関り、特に「活性化委員会」のメンバーとして自らリーダーシップをとり、若手会員の育成に取組み、当会の活動活性化に大きく貢献した。

本村 豪経

アイメディア株式会社
代表取締役



一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会

受賞理由

2017年から現在まで理事を務める。2018年から2022年まで青年部代表幹事に就任。2022年より広報委員会委員長として動画配信、機関誌、広報アプリ運営等、社団の情報発信の中核を担っている。

渡邊 辰美

株式会社あいわプリント
代表取締役社長



一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会

受賞理由

2018年より現在まで、全国理事を務める。また、2018年から現在まで北海道地方協議会 地協会長、2014年より現在まで北海道支部 支部長を務め、地協支部活動に貢献した功績は多大である。

小木 忠之

小澤製本株式会社
代表取締役



全日本製本工業組合連合会

受賞理由

2018年より全日本製本工業組合連合会理事ならびに東京都製本工業組合 経営・環境委員長を歴任。日印産連グリーンプリンティング推進部会委員歴は現在まで10年間に及び、GP認定制度の普及推進ならびに業界の環境保全事業へ果たした功績は大きい。

鶴田 龍士郎

株式会社 京都シールレーベル
代表取締役社長

全日本シール印刷協同組合連合会



受賞理由

全日本シール印刷協同組合連合会では、常務理事兼技術特許委員長を6年務めて現在も常務理事は重任している。この間、毎年実施のシールラベルコンテストでは「規定課題」の応募活性化に取り組むため勉強会を主催して実施している。また、技術特許委員長在任中には、当連合会にある4委員会を活性化することに着目して「4委員会合同セミナー」を開催してシリーズ化した。

山口 圭介

富士特殊紙業株式会社
常務取締役

全国グラビア協同組合連合会



受賞理由

外国人材をグラビア業界に導入するテーマに早くから取り組み、日本人と同等に手厚く親切に指導に努められ、自ら日本語教室を開いて、日本語指導に注力され効果をあげられた。また、グラビアの3K対策に取組み、年をとっても誰でもオペレーションできるグラビア印刷機とその周辺機器の開発にも当たっておられる。

錦山 慎太郎

株式会社共栄メディア
代表取締役社長

日本グラフィックコミュニケーションズ
工業組合連合会



受賞理由

枚葉デジタル印刷機を活用した色校正を考案し、デジタル印刷による色校正を市場に広く普及、浸透させた。色校正市場のゲームチェンジャーとして、印刷業のデジタル化を推進した功績は特筆するに値する。

宮坂 次郎

株式会社新興ブランド社
専務取締役

全日本スクリーン・デジタル印刷
協同組合連合会



受賞理由

透明なUVインキを立体的に盛り上げ印刷する点字印刷を開発し、従来のエンボス式に比べ、摩耗による汚れ、潰れが少なく、耐久性に優れていると高い評価を得た。また全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会専務理事として、2022年11月に開催した創立50周年記念式典の運営を主導し、講師に菅義偉第99代総理大臣を招くなど業界のイメージ向上に大きな貢献を成した。

工藤 久敏

株式会社 日本美術ライト商会
代表取締役

全日本光沢化工紙協同組合連合会



受賞理由

組合減少により財務状況が厳しくなり、堅実な組合運営が求められる状況において、適正に会計処理が行われているか厳しい目線で監査を行っている。ベテラン組合員と若手組合員のパイプ役となり組合活性化に努め、幅広い知識と経験で組合事業、運営に尽力している。様々な行事に積極的に参加し、組合を大いに盛り上げている。

特別賞

大阪府印刷工業組合

全日本印刷工業組合連合会

デジタルの時代だからこそ 「紙」の良さを啓蒙する 「紙育」イベント！ ペーパーサミットの開催

大阪府印刷工業組合 理事長 高本 隆彦

受賞理由

大阪府印刷工業組合では、「印刷(紙)はもっと楽しい!」「印刷(紙)はもっと面白い!」「印刷(紙)の可能性は無限大」をキーワードに、印刷の可能性を業界以外に広く周知するイベントとして、「ペーパーサミット」を令和4年から毎年開催している。新たな市場の開拓、新しいビジネスの種を育てることや、紙の大切さ、楽しさを知っていただき、クリエイターとコラボし、商品や企画を共に作り上げることで、自ら打って出られる力を養うため、印刷会社とクリエイターとのプレゼン会も行っている。今後も「紙」の良さを知ってもらうための本イベントは、中小印刷会社自身が印刷の魅力と可能性を発見することで、中小印刷業界の発展・振興に大きく貢献している。

印刷会社とクリエイターの共作モノづくりフェス



**ペーパー PAPER SUMMIT
2025 サミット**

2/15(土) 12:00-17:00 / 16(日) 10:00-16:00

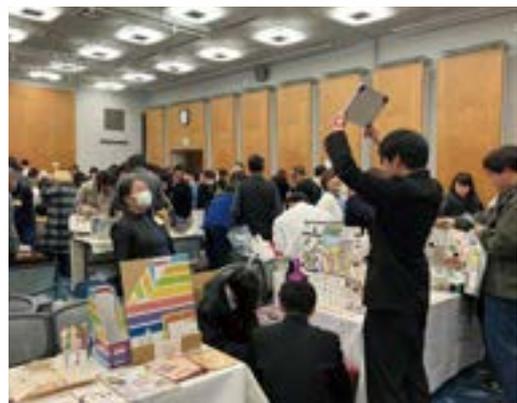
場所 大阪産業創造館3・4F
【お問い合わせ】大阪府印刷工業組合
Tel.06-6353-3035 (受付時間: 9:00-18:00)
※抽選応募や各種ワークショップなどお楽しみ満載!

入場チケット 一般・500円 (2025年2月12日(木)10:00受付開始) / 高校生以下・種がい者・同伴1名・無料 (2025年2月12日(木)10:00受付開始) / チケットはteketより12月に販売開始! ◆teket

主催 大阪府印刷工業組合 (協賛) MEBIC

イベントの開催は「ペーパーサミット」の公式サイトにてご確認ください

website Instagram Facebook X(twitter)



新たなビジネス事例

印刷イノベーション

地元資源を使った新規開拓例

お米の生産・販売事業で 新市場を開拓し地域文化に貢献 株式会社四ヶ所(福岡県)

株式会社四ヶ所は、1939年に創業した福岡県朝倉市で、企画・デザインから印刷まで、チラシ、カタログなどの商業印刷物を中心に展開している総合印刷会社である。現在、従業員30名を有しており、印刷ではコミュニケーション事業と銘打ち、生活者が共感できるクリエイティブなデザインを制作することをモットーにしている。

4代目となる代表取締役の四ヶ所大輔氏は、「地域の文化向上に貢献し、お客様と共に繁栄しよう」を経営理念に掲げて、2020年に地元の農家の人々が育てた美味しい農産物を届ける「あさくら産直市場事業」を始めた。

「朝倉の自然の中で育てた農産物を全国のお客様に届けるとなると何が良いかと考えた時に、この地域は昔から米作りが盛んでしたから、皆様の心と体が元気になるお米を作って、健康に暮らしてもらおうと思ったのです。そこで実際に米作りに携わって、そのお米をWebサイトで販売することにしました」と、四ヶ所社長は新事業を始めた動機について話す。

あさくら産直市場を立ち上げ推進

米農家であるデザイン部長の実家にあさくら産直市場の目指しているビジョンを話して協力を仰いだところ賛同を得たという。篠原農園株式会社を設立し、社長

にはデザイン部長の篠原広美氏が就くことになった。米作りに取り組んでいるのは四ヶ所社長と篠原部長の2人で、田植えから水田管理、稲刈り、脱穀、乾燥などの一連の米作りを行っているとのことだ。

「米作りはハードルが高いです。弊社の篠原部長の実家が、米農家をされていて田植え機やコンバインなどの機械を所有していたので、機械の投資が必要なかった点が大きかったです」。

四ヶ所社長は、米作りを始めるに当たって社員に打ち明けたところ反対意見はなかったという。「むしろ賛同してくれた社員がいました。印刷業だけでは先行きが厳しいことは社員も分かっていたから、新しい事業を立ち上げていくことに理解を示してくれました」と、社員の後押しもあった。

最初の収穫は2020年の秋だった。同年12月に通信販売するサイト「あさくら産直市場」を開設し販売を開始。無名ということもあって、Web広告を中心に宣伝を行ったが、販売は芳しくなかった。赤字は覚悟していたし、とにかく続けることを第一に考えていた。

また、作付面積が小さく収穫量が少ないために拡張



■篠原農園の水田

最前線!

第2回

この連載では、既存の印刷製品の優良事例や非印刷領域における先端事例を紹介します。

する必要があった。事業に協力してくれる契約農家を募って販売量を増やしていくが、数年間は紆余曲折だった。「2024年になり米騒動も相まって、初めて完売することができました。しかし、それでも赤字です。まだまだ販売量が足りません」とのことで、米作りを黒字化するのがいかに難しいかが窺える。

将来は印刷事業の売上を超えたい

同社が販売するお米の商品名は『山の麓のお米』といい、1合(150g)の四角いパッケージにして、12個入りから60個入りのケースの5種類の商品構成(12個単位)にして販売している。お米のラベルには、同社の社員が描いたイラストのデザインを施して、印刷会社としてデザイン力のあることもアピールしている。



■販売している『山の麓のお米』

現在、契約している作付面積は30反(3万㎡)で、それではまだまだ不足しており、4倍くらいに増やすことができれば、事業を黒字にすることが可能だという四ヶ所社長。農薬を使わず育てたお米を販売してくことを信条にしているようだ。

直近の課題は、米の高騰もあって近隣の農家が契約先を変えてしまうことで売上計画が立てられないことだという。「今後売上を伸ばしていくためには、篠原農園が作付面積を増やしていくしかないです。当面は、当社で販売するお米をいかに仕入れていくかが課題です」と語る。

また、一昨年から新たにアジア屋台を開店した。会社の前の敷地でキッチンカーでのスープカレーの販売を開始した。「消費者の声を直接聞いて商品開発やマーケティングに活かしたいという気持ちで始めました」とのことで、チャレンジ精神を持って取り組んでいる。

「印刷市場が縮小しているなか、印刷需要を高めるべくお客様にマーケティングの提供を行ったことがきっかけで、印刷業とは別の事業を始めることになりました。消費者の方からはあさくらのお米は美味しいと高い評価をいただいていますので末永く続けたいです。また、地域の方々の協力を得て農家同士のコミュニティを築いて文化を育てていければとも考えています。事業を成長させ、将来はあさくら産直市場が印刷事業の売上を超えるようにしたいです」と、抱負を述べる。



■あさくら産直市場のWebサイト
<https://www.asakura-sanchoku.market/>

株式会社四ヶ所

所在地：福岡県朝倉市馬田336

代表者：代表取締役 四ヶ所大輔

創業：1939年

URL：<https://www.shikasyo.com>

2024年度個人情報に関する事故報告(2)

前号に続いて、当審査センターが報告を受けた個人情報の取扱いにおける事故(39件)のうち、前号で説明しましたメール送信(9件)、ウイルス感染(不正アクセス含む)(8件)、封入ミス(6件)以外の事故16件について説明します。本事例を、教育等に活用して下さい。

表1 事故の現象別分類(年度別)

報告 件数	分類	漏えい								盗難・紛失・消失			その他	合計	
		誤送付						ウイルス 感染	Web上	その他	盗難	紛失			消失
		宛名 関連	配達 ミス	封入 ミス	圧着 ミス	FAX 送信	メール 送信								
2020年度		1		3			1	3				2			11
2021年度		3		2				1	1			3			12
2022年度		1		7			4	5	2			1	2		29
2023年度		1	1	15	2		8	4	1			5	2		44
2024年度		3	2	6			9	5	1			5			39
計		9	3	33	2	0	27	18	5	0	0	16	4	0	135

※ウイルス感染には不正アクセス含む

表2 日印産連プライバシーマーク審査センターに報告のあった封入ミス、メール送信事故(2024年度)のうち、メール送信、ウイルス感染(不正アクセス含む)、封入ミス以外の事故(16件)

漏えい/Web上	5件
① eラーニングの委託先が、eラーニング受講者一覧情報を別の顧客向けに顧客管理データベースからエクスポートした際にフィルター設定を誤り、所属企業名及び受講者(当社社員)の氏名が漏えいした。	
② イベント会場で利用者が顔写真を撮影し、プリントを行うサービスにおいて、QRコードから自分の写真にアクセスしたところ、同一時刻に撮影した他人の画像が閲覧でき、顔写真の個人情報が漏えいした。	
③ 委託元が運営する会員サイトの構築及び運用業務において、委託先がサイトの表示崩れの対応のため、キャッシュプラグインを導入し公開したところ、サイトへアクセスし、最初にページを表示したユーザーの情報がサーバーにキャッシュとして保存され、次に同ページへアクセスした別のユーザーに、氏名、メールアドレス等の個人情報が表示され漏えいした。	
④ サイト構築の受託業務において、申込フォームを使用する際、委託先の設定ミスにより、申込受付終了のご案内テキスト中のリンクをクリックすると、氏名、メールアドレス等の他の申込者情報が閲覧でき漏えいした。	
⑤ サイト構築の受託業務において、設定ミスにより、応募者がオープンしたサイトにアクセスして申込フォームに情報を入力確認した後、修正ボタンを押すと、本人ではない氏名、住所、メールアドレス等の申込情報が表示され漏えいした。	
盗難・紛失・消失/紛失	5件
① プレゼント発送業務において、発送説明書、同封する挨拶文、弊社への返信用封筒、当選者リスト(住所、名前、電話番号)を委託先の配送業者に手渡したが、同書面を郵便事業者にて紛失した。	
② 弊社の社員が、入社途中に、貸与されたスマートデバイスを紛失した。カバンからイヤホンを取り出した際に、落下した可能性大。	
③ プレゼント発送業務(ステッカー)において、配送会社に配送を委託したところ、配達時にトラックの後方扉を開けた際、強風(吹雪)にて荷物が社外に飛ばされ用水路に落ち、拾い上げることが出来ず紛失した。	

④ 当社社員が、顧客へ提出した見積書の写しを、出張中のホテルのデスク上に置き忘れ、取得物として地元警察署へ届けられ、警察から顧客に問い合わせが入った。

⑤ オフィス移転準備期間に、Pマーク文書である、委託先と締結した覚書一式を誤って廃棄処分した。

漏えい/誤送付/宛名間違い 3件

① 受託した給付金事業の申請受付事務局業務において、委託先が送付先データの並び替え作業を誤り、誤送付が発生し、氏名、生年月日、住所の個人情報が漏えいした。

② 受託したデータ処理業務において、送付先データの並び替え作業を失念し、通知と宛名の不整合による誤送付が発生し、氏名、生年月日、住所の個人情報が漏えいした。

③ 受託したダイレクトメール発送業務において、申込書に過去のお届け先情報を印字して各申込者に発送するところ、プログラムのミスにより、一部の申込書は別の同姓同名の申込者のお届け先情報が印字されて発送され、氏名、住所、購買履歴等の個人情報が漏えいした。

漏えい/誤送付/配達間違い 2件

① 印刷製品の配送において、委託先にて、本来Aさん宅に届けるべき配送物を、誤ってBさん宅に届けてしまい、配送伝票に記載されていた、氏名、住所、電話番号の個人情報が漏えいした。

② 委託先の配送業者の誤配送により、顧客宛に配送予定の高等学校手帳2冊が、関係のない個人宅へ配送され、氏名、顔写真等の個人情報が漏えいした。

漏えい/その他 1件

① 求人サイトの運営業務において、委託先のシステム設定不備により、求職者が意図した求人とは別の求人に応募者データが送られ、求職者の氏名、生年月日、電話番号、メールアドレス等の個人情報が漏えいした。

プライバシーマーク付与事業者のご紹介

2025年6月～2025年8月に日印産連プライバシーマーク審査センター審査委員会において、プライバシーマーク付与適格決定を受けた事業者は以下のとおりです。

〈第211回審査委員会 2025年6月23日(月)開催〉

【更新事業者】 共同印刷西日本株式会社、株式会社隣報社、株式会社プレスメディア、山部印刷株式会社、株式会社光和印刷、株式会社内外プロセス、香川印刷株式会社、株式会社Taisei、フォトオフセット協同印刷株式会社、レスター工業株式会社、東洋印刷株式会社、小林クリエイティブ九州株式会社

〈第212回審査委員会 2025年7月28日(月)開催〉

【更新事業者】 株式会社コーセイカン、株式会社ユニバーサルポスト、ジャパンプリント株式会社、株式会社DNPコアライズ、株式会社東海共同印刷、株式会社日光印刷出版社、郵田印刷紙器株式会社、萩原印刷株式会社、株式会社オオツカ、有限会社安倍製本所、株式会社DNPロジスティクス、株式会社二葉企画、シンコー印刷株式会社、株式会社ライトハウス、株式会社白橋、東亜印刷株式会社、ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社、川嶋印刷株式会社、荒瀬印刷株式会社、株式会社タナカ、株式会社DNP情報システム、熊谷印刷株式会社、株式会社エスピーエフ、ライト印刷株式会社

〈第213回審査委員会 2025年8月25日(月)開催〉

【更新事業者】 株式会社DNPデジタルソリューションズ、株式会社ゼンリンプリンテックス、株式会社iプランニングKOHWA、株式会社サンビジネス、株式会社太陽プリント、田中昭文堂印刷株式会社、那須印刷株式会社、株式会社佐藤印刷所、株式会社ノスメディア



グリーンプリンティングニュース

2025GP環境大賞等表彰

日印産連では、印刷業界のより高いレベルでの環境保全活動を推進するため、印刷業界独自に定めた環境自主基準「印刷サービスグリーン基準」を制定し、2006年から印刷工場と印刷製品の総合的環境配慮を認定する「グリーンプリンティング認定制度(GP認定制度)」の普及・拡大を進めています。

2015年からはGP認定制度の活用には積極的な企業・団体に対して、感謝の意を込めて、GP環境大賞、GPマーク普及大賞、GP資機材環境大賞を贈呈しています。

※企業・団体名は五十音順

GP環境大賞(表彰対象:クライアント)

GP環境大賞は、印刷業界が地球環境への負荷低減に取り組むために創設したGP認定制度に対して、深く理解し積極的に活用していただいている企業や団体に敬意と感謝の意を込めて贈るものです。2025GP環境大賞は、2024年度(2024年4月1日から2025年3月31日まで)にGPマークを表示した印刷製品をより多く発注した企業・団体を表彰します。また、パッケージを中心にGPマーク表示が拡大する中、表彰の対象を一般印刷とパッケージ印刷の2部門に分けるとともに、過去3回GP環境大賞を受賞した企業・団体には、4回目の表彰時にその活動に対して最大の賛辞と敬意を表するために「GP環境大賞ゴールドプライズ」を贈呈しています。

GP環境大賞ゴールドプライズ



株式会社あわしま堂



※GP環境準大賞ゴールドプライズをすでに受賞している企業:

NTTタウンページ株式会社、大阪商工信用金庫、株式会社ジェイアール東日本企画、株式会社タカラトミー、東京都、東武鉄道株式会社

GP環境大賞



一般印刷の部

株式会社教育芸術社



日本航空株式会社



パッケージ印刷の部

竹下製菓株式会社



GP環境準大賞



一般印刷の部

あいあいニッセイ同和損害保険株式会社

沖縄市役所

全国間税会総連合会

株式会社ホンダモビリティ中部

パッケージ印刷の部

チャコット株式会社

GPマーク普及大賞（表彰対象：印刷会社）

GPマーク普及大賞は、GPマーク表示にもっとも貢献したGP認定工場を他の模範として、会社単位で表彰するものです。2025GPマーク普及大賞は、2024年度にGPマーク表示印刷製品をより多く受注・製造した印刷会社を表彰します。本賞は、オフセット印刷部門、グラビア・シール・スクリーン印刷部門、製本・表面加工部門の3部門に分けて表彰します。なお、過去3回以上GPマーク普及大賞を受賞した印刷会社で継続的な実績が認められた場合には、最大の賛辞と敬意を表すために、「GPマーク普及大賞ゴールドプライズ」を贈呈します。

GPマーク普及大賞ゴールドプライズ



株式会社北四国グラビア印刷



六三印刷株式会社



GPマーク普及大賞

オフセット印刷部門



宝印刷株式会社



丸正印刷株式会社



グラビア・シール・スクリーン印刷部門

株式会社巧芸社



GPマーク普及準大賞



オフセット印刷部門

株式会社KASAMA

大日本印刷株式会社

株式会社文伸

グラビア・シール・スクリーン印刷部門

賀谷セロファン株式会社

製本・表面加工部門

株式会社シュウエイ

株式会社多田紙工

GP資機材環境大賞（表彰対象:資機材メーカー）

GP資機材環境大賞は、印刷工場環境負荷低減及び作業環境改善に貢献し、GP資機材認定製品を積極的にご提供いただいている資機材メーカーに贈るもので、2024年度にGP資機材認定製品の新規登録数をもっとも多い資機材メーカーを資材、機材の部門別に表彰します。なお、本賞については、今年度から過去に同部門を受賞したメーカーも選考対象となります。



資材部門

日本シーマ株式会社

機材部門

株式会社リコー

2026年1月から「下請法」は「取適法」へ!

下請法の改正法が2026年1月1日に施行され、
規制内容の追加や規制対象の拡大がなされるとともに、
法律名も変更されます(新通称:「取適法(とりてきほう)」)

改正事項

法律の題名・用語の変更

下請代金支払遅延等防止法 ……▶	製造委託等に係る中小事業者に対する 代金の支払の遅延等の防止に関する法律
下請代金 ……▶	製造委託等代金
親事業者 ……▶	委託事業者
下請事業者 ……▶	中小受託事業者

適用対象の拡大

●適用基準に「従業員基準」を追加

従来の資本金基準に加え、従業員基準(300人、100人)が追加され、規制及び保護の対象が拡充されます

●対象取引に「特定運送委託」を追加

適用対象となる取引に、製造等の目的物の引渡しに必要な運送の委託が追加されます

禁止行為の追加

●「協議に応じない一方的な代金決定」を禁止

代金に関する協議に応じないことや、必要な説明を行わないことなど、一方的な代金決定が禁止されます

●「手形払」等を禁止

手形払が禁止されるとともに、その他の支払手段(電子記録債権等)についても、
支払期日までに代金相当額満額を得ることが困難なものが禁止されます

面的執行の強化

●事業所管省庁に指導・助言権限を付与

事業所管省庁において、指導及び助言ができるようになるほか、
報復措置の禁止に係る情報提供先にも事業所管省庁が追加されます

その他

●製造委託の対象物品に金型以外の型等が追加されます

- 書面交付義務について、中小受託事業者の承諾の有無にかかわらず、
電子メールなどの電磁的方法による方法とすることが可能になります

法改正のポイントにつき、「中小受託取引適正化法
ガイドブック」を御参照いただき、理解を深めてい
ただければ幸いです。

掲 載 先

<https://www.jftc.go.jp/file/toriteki002.pdf>



取適法関係情報
(公取委ウェブサイト)



取適法ガイドブック



日印産連 40周年記念トークイベント 全国カタログ展 文部科学大臣賞 受賞作品 制作秘話トークイベント

『ファインペーパー×シルクスクリーン×デザインが
魅せる世界』開催

私たちの原点である「紙」と「印刷」の魅力をあらためて見つめ直し、これからも印刷の未来に向けて、さらなる価値を創造していこうというテーマのもと第一弾として、40周年を記念して、特別トークイベントを8月6日に開催いたしました。

本イベントでは、紙という素材の魅力、印刷技術の精緻さ、そしてそれらを昇華させるデザインの力ー三位一体で表現された受賞カタログの制作秘話をご紹介します。登壇者からは、紙・印刷・デザインのそれぞれの立場からの熱いメッセージを語っていただきました。参加者には、印刷の持つ表現力の可能性と、紙の価値、デザインの役割を再発見していただける、40周年にふさわしい、未来へとつながるトークイベントとなりました。

〈登壇者〉

熊沢印刷工芸株式会社 代表取締役社長 熊沢 豊 氏
製造部 企画・製版課 課長 久田 悠貴 氏
株式会社竹尾 企画部 兼 web戦略室 次長 鈴木 裕也 氏
モリデザイン株式会社 代表/デザインディレクター 森 治樹 氏

〈進行司会〉

アウトサイト グラフィックス 代表/デザイナー 後藤 圭介 氏

〈参加者〉

全体80名(内10団体関係者6割、クリエイター、用紙関連、学生が4割)

イベント後のアンケートからは、「印刷の可能性を大きく感じた」との声が多数寄せられ、参加者の関心と期待の高さを実感するとともに、「今後もこの業界に携わりたい」とのコメントもあり、印刷業界への前向きな声をいただくことができました。

また、若手制作者によるメッセージが参加者に力強く届き、世代を超えた刺激を生んだことも印象的でした。オンライン全盛だからこそ、ものづくりの本質を再考する機会となりました。



トークイベント概要

第66回全国カタログ展にて文部科学大臣賞を受賞した「FINE PAPER × SILK SCREEN見本帳」。

本見本帳は、シルクスクリーン印刷に特化し、創業60年を誇る熊沢印刷工芸株式会社、多くのデザイナー・クリエイターから支持を得ている紙商社・株式会社竹尾、グラフィックデザインコンサルタント事務所として国内外のデザインを手掛けるモリデザイン株式会社の3社により共同制作されました。

デザイナーやクリエイターに向けて、シルクスクリーン印刷の魅力や技術、多彩な表現の可能性を伝えるプロジェクトの一環として生まれたものです。

使用されたファインペーパーは株式会社竹尾より提供され、デザインはモリデザイン株式会社が担当。

多種多様な紙と印刷技術を掛け合わせながら、3社が6か月以上にわたり綿密に連携し、完成に至りました。

本イベントでは、この見本帳制作の舞台裏や、関係者だからこそ語れる制作秘話をお届けしました。

さらに、昨年秋、竹尾のショールーム・青山見本帖での展示会に展示されたB1ポスターや制作過程を記録した映像、実際の見本帳の中身も間近でご覧いただけるよう、印刷の奥深さを五感で体感していただける内容を展示しました。



当日のトークイベント動画はこちらより
https://www.jfpi.or.jp/topics_detail6/id=70

印刷工業会

「心の健康 ～前向きに暮らすためのヒント」 名越康文氏を講師に「9月印刷の月 協賛特別講演会」を開催

印刷工業会では、2025年の「9月印刷の月」協賛行事として、8月20日(水)午後4時より、教育・研究部会主催による特別講演会を開催し、講師に名越康文氏をお招きし、「心の健康 ～前向きに暮らすためのヒント」を演題にお話をいただきました。



名越氏は思春期精神医学や精神療法を専門とし、メディアや評論など幅広く活躍されています。講演では、ゴリラ、チンパンジー、オラウタン、ボノボを例に挙げ、それぞれの類型による性格を人間に例えて端的に表現し、タイプごとの付き合い方や対処法について解説してくださいました。

また、睡眠の大切さについても説かれ、日本人に最も不足しているのは、医学的・精神的観点から見ても「睡眠時間」であるとの指摘がありました。

そして仏教の話題では、仏教とはまさに心理学であり、空海は有史以来初の心理学者だったと述べられました。そして、「自分にも他人にも優しい言葉を使うこと」が心の健康に重要であるとし、仏教用語の「愛語」を紹介。柔らかい語尾を意識することでチャンスが巡ってくること、また、つらい時にかけられた優しい一言は一生心に残り、それを百日続ければ人生が変わるとのお話もありました。

最後に、「どのようにしたら人生が成功するか」という問いに対し、仏教の観点から「菩提心—成長すること」、「大悲—人の悲しみや苦しみに心を寄せること」、「方便—余裕があるときには相手を勇気付けること」、この三つを日々実践することで、人は充足感を得られると紹介されました。

参加者の皆さまより惜しめない拍手が送られ、講演は盛況のうちに無事終了いたしました。

全日本印刷工業組合連合会

全印工連が推進する「メディア・ ユニバーサルデザイン (MUD)」事業

全印工連では2007年度からメディア・ユニバーサルデザイン (MUD) 事業を推進しており、一般社会に対してMUDの普及・促進活動を行っていますが、東京都は今年3月、ユニバーサルデザインのガイドライン『TOKYOユニバーサルデザインガイドライン』にMUDの概念や考え方を盛り込み、14年ぶりに改訂いたしました。

これにより、今後全国におけるMUDの普及のスピードはさらに増すことが考えられるため、全印工連は今年5月に改訂版冊子『INFORMATION DESIGN【MEDIA UNIVERSAL DESIGN】理解しやすい情報デザイン (情報保障) のために』(販売価格：全印工連組合員3,300円、一般4,400円)を刊行いたしました。

本冊子は、日印産連傘下10団体の会員の方もご購入いただけますので、MUDを体系的・包括的に学ぶことができ、障がい者、高齢者、外国人、子ども等への見やすさ・伝わりやすさへの配慮などにご活用いただきたく存じます。

また、全印工連では「すべての人に優しく、誰もが快適に利用できること」を目的とした「第19回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」の作品を、12月5日(金)(当日消印有効)まで広く募集しています。

前回(第18回)は最高位の経済産業大臣賞に一般の部からは愛媛県の佐川印刷株式会社・佐川正純様制作の「鑑賞」から「体験」へ、進化する視覚障がい者向け『手で見える絵画 (2.5Dリアルプリンティング)』三部作が、学生の部からは静岡文化芸術大学・飯塚ゆりの様制作の「おいしいレストラン」がそれぞれ受賞しました。第19回の今回も斬新なアイデアに富んだ作品のご応募を多数お待ちしております。



冊子お申し込みは刊行物販売サイトから
<https://www.aj-pia.or.jp/publications/>



募集要項ダウンロードはこちらから
<https://x.gd/ZAdrk>

日本フォーム印刷工業連合会

日本フォーム印刷工業連合会「2025年 夏季講演会」、関東フォーム印刷工業会「2025年 夏季懇親会」を開催

8月21日(木)、「2025年 夏季講演会・懇親会」をホテル椿山荘東京にて、全国の会員および関係者に参加を頂き、盛大に開催した。

日本フォーム工連(添田秀樹会長)主催の「夏季講演会」では、2028年ロサンゼルス五輪で追加競技に採用されたフラッグフットボールの責任者である廣田慶氏(公益社団法人日本アメリカンフットボール協会専務理事、JOC認定ハイパフォーマンスディレクター)が登壇され、「『目的の力』フラッグフットボールJAPANのチームビルディング～2028年ロス五輪への挑戦～」と題して講演された。

廣田氏は、五輪出場を目指すフラッグフットボールJAPANの取り組みを紹介し、チーム全員が同じ目的を持って結束し、最高のパフォーマンスを発揮する「チーム力」をテーマに、今後必要となる若者の人材育成や、多様性を活かした組織づくりの重要性について話された。



講師：廣田慶氏

講演会に引き続き、関東フォーム印刷工業会主催の「夏季懇親会」が開催された。

開会にあたり、松本康宏会長は「昨今はネガティブな話が多いが、先ほどの廣田先生の講演を各会社に持ち帰って実践できれば、年末あるいは年度末あたりにいい話が皆さんでできるかなと思っている」と挨拶した。日本フォーム工連の添田秀樹会長の来賓挨拶に続いて、日本印刷産業連合会の緒方宏俊専務理事の乾杯により開宴し、懇親を深めた。



添田会長



松本会長



緒方専務理事



懇親会

日本グラフィックサービス工業会

第28回 日本自費出版文化賞受賞作が決定 大賞受賞はなし、色川大吉賞に 「私のことは わたしが決める」

日本グラフィックサービス工業会主催、NPO法人日本自費出版ネットワーク主管の第28回日本自費出版文化賞の最終選考会が9月1日、吉祥寺 東急REIホテルで開催されました。

厳正な審査の結果、前年比12%増となる応募作品805点から色川大吉賞1点、部門賞7点、特別賞7点、シルバー特別賞1点の計16点の受賞作品が決定しました。残念ながら今回大賞は「該当なし」となりました。



色川大吉賞

最終審査会後の記者発表会で岡本会長は「今年も力作揃いだった。今回は大賞の該当賞がないということで、28回を数える自費出版文化賞、やはり基準を厳しくということで、応募作品の中からベストなものを選んではなく、各賞に適合したものを選んでいくという選考委員の皆さんの審査に対する情熱を感じることができた。自費出版の世界は今年も伸びている。海外ではすでにAmazonで2割を超えるものが自費出版であったり、毎年30万タイトルくらいが自費出版されているというようなことも聞く。技術的にはPODの発展も大きく影響しているのではと思う。PODの開発で一般ユーザーの出版に対するハードルが下がった。今後ますます、日本でも自費出版の世界が伸びていくことは、間違いのない。これからも自費出版の世界を日本で確固たる文化にしていくんだという思いで、引き続き取り組んでいく」と主催者を代表して挨拶しました。



主催者挨拶を述べる
岡本会長

鎌田慧選考委員長は「自分の記録を残したい、自分が作ったものをカタチにしたいという夢は時代が変わっても、むしろますます強まっている。そういう点で自費出版文化賞の応募点数が増えているというのは時代を反映していると言える。活字文化が衰退していると言われていたが、作品を残したい人たちの夢は残っている。それを保障するシステムとして日本自費出版文化賞がある。残念ながら今年は大賞の該当はなかったが、これからもしっかりと審査していく」と講評を述べました。

鎌田慧選考委員長は「自分の記録を残したい、自分が作ったものをカタチにしたいという夢は時代が変わっても、むしろますます強まっている。そういう点で自費出版文化賞の応募点数が増えているというのは時代を反映していると言える。活字文化が衰退していると言われていたが、作品を残したい人たちの夢は残っている。それを保障するシステムとして日本自費出版文化賞がある。残念ながら今年は大賞の該当はなかったが、これからもしっかりと審査していく」と講評を述べました。



発表する
鎌田選考委員長

全日本製本工業組合連合会

第61回 全国大会を福岡で開催 「紙の未来プロジェクト」発表 自ら市場に飛び込む商品企画力を

第61回全製工連全国大会が、9月6日に福岡市のANAクラウンプラザホテル福岡で開催され、来賓、関連業者を含め182名が参加した。福岡での開催は31年ぶり。

午後2時からの講演会では、太宰府天満宮文化研究所 主管学芸員の味酒安則氏が『本屋の神様、蔦屋重三郎と江戸のポストバブル』と題して講演した。

本大会では、開催地を代表して福岡工組の宮地啓一理事長、主催者を代表して全製工連の田中真文会長があいさつ。来賓の祝辞を受けた後、製本文化賞（功労賞、振興賞、善行賞、会員特別賞）と感謝状の贈呈が行われた。



田中会長挨拶

続いて、専門委員会、紙の未来プロジェクト委員会など各種報告のあと、大会スローガン「変わらぬ過去、変える今、変わる未来。変化を恐れず挑戦し、自分も周囲も変えていこう！ 業界全体で～不易流行～」の提案と大会宣言が行われ、満場一致で採択された。次回2027年の第62回全国大会の開催地である東京の鈴木博東京工組理事長の音頭による万歳三唱で本大会を締め、6時から懇親会が開かれた。豊富なアトラクションも会場を盛り上げ、白岩将義大会実行委員長による中締めで閉宴となった。

今大会では、製本産業ビジョン2030〈紙の未来プロジェクト〉の発表が、田中尚寛委員長ほか参画したプロジェクト委員から行われた。内容は当日配布された冊子『市場へ紙動』にまとめたほか、会場には委員各社が制作に挑んだ付加価値の高いオリジナル商品を展示し、好評だった。プロジェクトは、製本会社が自らマーケットに近づく商品企画力を持つことを提唱し、2030年に目指すべきゴールとして、「デザイナーの力を使いこなす」、「オリジナル商品づくりを通して、市場の今を感じとり、そして飛び込む」を設定した。



ビジョン2030を発表する〈紙の未来プロジェクト〉委員

全日本シール印刷協同組合連合会

第35回 シールラベルコンテストを実施 60社103作品の応募があった

第35回シールラベルコンテストは令和7年6月5日（募集開始）～7月15日（応募締切）で行われ60社103作品の応募があった。

第35回 シールラベルコンテスト応募状況（確定版）

応募社数	60社（59社）	作品数	103作品（112作品）
自由課題	35作品（43作品）	規定課題	68作品（69作品） 平圧23作品（25作品） 輪転45作品（44作品）
北海道	1社4作品	東海北陸	7社10作品
東北	5社10作品	京都	6社8作品
正礼	15社24作品	大阪	13社21作品
ラベル	3社6作品	九州	8社17作品
神奈川	2社3作品		

全国の各協組から選出の技術委員による第1次審査会（基礎技術を審査）は、7月25日に東京シール印刷会館3F会議室にて行われ、その後の8月1日には「上野精養軒」にて、日印産連・協賛会各役員による第2次審査会（主にデザイン面を中心に審査）を行い、経済産業省商務・サービスグループ文化創造産業課の中村課長補佐、木村係長もオブザーバーとしてこれら上位賞が内定した。

第1次審査会で審査された作品のうち、点数が高い上位21作品（自由課題）を第2次審査会に持ち込みそこで加点された作品のうち、最も高得点を獲得した作品に「経済産業大臣賞」、第2・3位の作品には「経済産業省大臣官房商務・サービス審議官賞」が授与される。以下、第4位に「日本印刷産業連合会会長賞」、第5位に「全日本シール印刷協賛会会長賞」が授与される。

また、規定課題で平圧若しくは輪転の第1位作品のうちから高得点を「日本印刷産業連合会会長賞」、次点の作品を「全日本シール印刷協賛会会長賞」に選出される。「全日本シール印刷協同組合連合会会長賞」は各部門の上位作品を選出。

「技術・特許委員会賞」総合順位で上記賞に準じた作品を選出、「優秀賞」は自由課題、規定課題で一定の基準を満たした作品数点を選出した。

表彰式並びに結果発表は、令和7年10月24日開催予定の第67回年次大会・大阪大会で行われる。

第1次審査会



全国グラビア協同組合連合会

「全国グラビア協同組合連合会・ 関東グラビア協同組合」合同理事会開催

9月11日(木)日本印刷産業連合会「印刷の月記念式典」出席に先駆けて、同日12時よりホテルニューオータニ「AZALEA」にて「全国グラビア協同組合連合会・関東グラビア協同組合」合同理事会を開催した。



田口会長はじめ、全国単組理事長・副理事長、関東グラビア協同組合理事、報道、事務局の合計27名が出席した。新メンバー2名を迎え、準備したお弁当を食べながら、和やかな雰囲気スタートした。理事会が開始すると一転真剣モードに切り替わり、議事が進行した。田口会長の挨拶、新メンバー挨拶、全国単組の近況報告の後、来年度北海道にて開催予定の総会計画、日印産連表彰者紹介、GP環境大賞表彰企業・表彰式の案内、特定技能外国人受入事業実施法人(JAIM)の登録報告、外国人育成就労移行への最新情報等議事を進めた。久々の顔合わせで、盛りだくさんの課題を抱える事もあり、議題が10以上にもなり、駆け足で議事が進んだ。

WEBではなくFACE to FACEでの打ち合わせの重要性を再認識し、厳しい経営環境ではあるが、来年の北海道開催の総会を楽しみに頑張っていこうと散会した。

理事会の後、日印産連「印刷の月 記念式典」、懇親会に出席した。

日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会

第2回 理事会開催

8月26日 ZOOMによる理事会を開催。各事業委員会報告、地区工組報告、産連報告に続き、組織強化のための組織の改編について協議を行った。

産連表彰受賞

9月11日開催の日印産連設立40周年記念『9月印刷の月記念式典』が開催され、日印産連表彰でGCJ副会長のGC九州理事長田中潤一郎氏が印刷功労賞を、GCJ会長の錦山慎太郎氏が印刷振興賞受賞の榮譽に浴した。

田中氏は長きに亘りGC九州の副理事長を務め、理事長に就任後はGCJの副会長として、リーダーシップを発揮し組合の融和と発展に重要な役割を果たした。また、現会長の錦山氏は枚葉デジタル印刷機活用の色校正を考案し、印刷業のデジタル化推進に貢献した。



各賞受賞のお二人



産連会長より賞状を授与

GCJ全国集会IN仙台開催

9月13日 第3回となる全国集会在GC東北(高橋健一郎副会長)主催で開催された。

当日は生憎の天候であったが、仙台のジャズ・フェスティバル開催と重なり、アーケードはジャズの生演奏を求めて全国から多くのジャズファンと観光客で溢れていた。

錦山会長より開会の挨拶として、集会開催地であるGC東北会員並びに北海道から九州まで集会最多となる40名の参加者にたいして謝辞が述べられた。またこの機会により

親交を深めビジネスパートナーとして、現在展開中の生産シェアプロジェクトの活性化を望む旨、そして来年は4年に1度東京で開催される全国大会への協力を呼びかけた。



開会の挨拶



GC東北のメンバーを紹介する高橋副会長

全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会

第12回 ASGA印刷作品コンクール 審査結果 金賞1・銅賞2を受賞

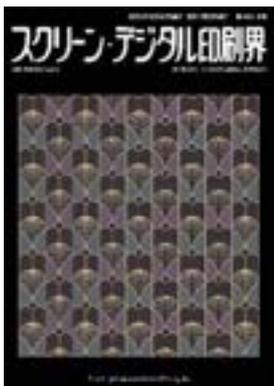
金賞 太美工芸株式会社（愛知組合）
銅賞 熊沢印刷工芸株式会社（東京組合）
株式会社豊成産業（東京組合）

当連合会が加入しておりますアジア地域のスクリーン・デジタル印刷団体であるASGAが、スクリーン印刷ならびにデジタル印刷における新しい技術の利用と普及の推進を目的に、第12回 ASGA印刷コンクールを実施いたしました。

8月6日、「DSPE China 2025」展示会が開催された中国の上海新国際博覧センターにおいて審査が行われました。195の応募作品の中から、連合会組合員の受賞は下記の3作品でした。



金賞 太美工芸株式会社（パンダの両面ステッカー）



銅賞 熊沢印刷工芸株式会社（スクリーン・デジタル印刷界 2025年6月号表紙）



銅賞 株式会社 豊成産業（スクリーン・デジタル印刷界 2024年10月号表紙）

全日本光沢化工紙協同組合連合会

第47回 全日本光沢化工紙 全国大会

全日本光沢化工紙協同組合連合会は9月26日、関西光沢化工紙協同組合主管で全国大会を大阪キャッスルホテルで開催、約50名が参加した。



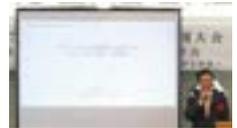
第1部大会式典では、始めに実行委員長の関西光沢化工紙協同組合、高見正行理事長が大阪・関西万博に合わせて行われる本大会の狙いと思いについて述べた。次いで大会会長である連合会、木村亨会長が光沢および特殊加工業界の



高見正行大会実行委員長

現状と課題を踏まえた連合会の取り組みを報告、本大会を通して組合員の諸課題解決と連携強化に期待すると述べた。お招きした一社）日本印刷産業連合会、緒方宏俊専務理事からご祝辞を頂戴した。続いて大会宣言「2025年 大阪・関西万博の開催にあたり、持続可能な社会への挑戦を掲げ、光沢化工を通じて業界の未来を守り、組合全体の発展を課せられた責任だと捉え、発信していく事を宣言します」、大会スローガン「共感、共存、共栄 共に育もう 相互理解と生き延びる知恵」を採択した。

第2部基調講演では、かけはし総合事務所 代表 福島正章氏を迎え「ハリーアップ症候群に起因するヒューマンエラーの防止」について講演いただいた。



第3部懇親会は、水の都大阪ならではの旧淀川（旧淀川）をクルージングする屋形船で行われた。参加者全員が連合会名の入ったお揃いのポロシャツを着用して一体感を演出、船上からはライトアップされた大阪城を望むことができ、大いに盛り上がり懇親を深めた。

次回全国大会は、2年後に関東特殊加工協同組合主幹で行う予定となっている。



大川（旧淀川）をクルージングする屋形船で行われた懇親会

2025年 7月 Jul. 2025

1(火)	第3回 グリーンプリンティング推進部会 GP周知活動WG		*
2(水)	グリーンプリンティング制度概要説明会		*
	第1回 環境マネジメント部会	日印産連会議室	*
3(木)	第2回 グリーンプリンティング推進部会		*
9(水)	第1回 知的財産部会	日印産連会議室	
15(火)	グリーンプリンティング認定工場更新説明会 グラビア印刷部門		*
16(水)	グリーンプリンティング認定工場更新説明会 オフセット印刷部門	印刷会館 202・203	
22(火)	日印産連表彰選考委員会	印刷会館2F 大会議室	*
	第2回 ステアリング・コミッティ (運営委員会)	印刷会館2F 大会議室	*
23(水)	グリーンプリンティング申請書作成説明会		*
24(木)	第1回 労働安全衛生部会	日印産連会議室	*
28(月)	第212回 プライバシーマーク審査委員会	日印産連会議室	
	プライバシーマーク審査員勉強会	日印産連会議室	*
29(火)	第62回 グリーンプリンティング認定工場交流会		*
30(水)	第3回 理事会	印刷会館2F 大会議室	*

2025年 8月 Aug. 2025

4(月)	グリーンプリンティング制度概要説明会		*
6(水)	熊沢印刷×竹尾×森デザイン トークショー	印刷会館2F 大会議室	
20(水)	グリーンプリンティング申請書作成説明会		*
	サイバー攻撃対策セミナー		*
25(月)	第213回 プライバシーマーク審査委員会	日印産連会議室	
26(火)	第4回 グリーンプリンティング推進部会 GP周知活動WG	日印産連会議室	

2025年 9月 Sep. 2025

1(月)	第5回 グリーンプリンティング推進部会 GP周知活動WG		*
2(火)	第2回 環境自主行動計画推進WG	日印産連会議室	*
	グリーンプリンティング制度概要説明会		*
11(木)	2025年「9月印刷の月」講演会・ 記念式典・懇親会	ホテルニューオータニ	
24(水)	グリーンプリンティング申請書作成説明会		*
	第3回 ステアリング・コミッティ (運営委員会)	印刷会館2F 大会議室	*
25(木)	第3回 グリーンプリンティング推進部会		*
	第80回 グリーンプリンティング工場認定委員会		*
29(月)	「造本装幀コンクール」授賞式	出版クラブビル	
30(火)	第214回 プライバシーマーク審査委員会	日印産連会議室	*
	第67回 プライバシーマーク審査員研修会	日印産連会議室	*

*WEB開催、併用の会議



事務局だより

朝夕に涼しさを感じる日も増え、少しずつ秋の気配を感じる季節となりました。

それでも日中はまだ残暑が厳しく、寒暖差に戸惑う事も多いです。皆さまも体調管理にはくれぐれもお気をつけください。

そんな中、連日の大谷翔平選手の活躍には思わず元気をもらい、個人的には毎朝ニュースをチェックするのがちょっとした楽しみになっています。暑さに負けず、前向きに頑張ろうという気持ちになるのは、きっと私だけではないと思います。

9月11日(木)に、2025年「9月印刷の月」記念式典を開催致しました。式典の様子は本号巻頭で特集しておりますので、ぜひご覧ください。

関係者の皆様のお力添えにより、式典を無事に終了することができましたこと、心より御礼申し上げます。

講演会では、小説家の京極夏彦氏を講師に招き、印刷文化—印刷メディアの可能性について講演いただきました。

表彰式を執り行いました、2025年度日印産連表彰ご授賞者につきましては、今号P.9～P.18でご紹介しております。今年は日印産連設立40周年の節目として、40周年特別表彰を設けました。受賞者の皆様、この度のご受賞、誠におめでとうございました。

懇親会も多くの方にご参加いただき、和やかな雰囲気の中、皆様の交流を深める場となりました。

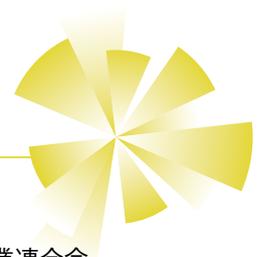
GPニュースにてご紹介しております、GP環境大賞等の表彰は、10月15日(水)に出版クラブホールにて表彰式を執り行いましたので、次号でその様子をご紹介いたします。

次のイベントは2026年1月7日(水)開催の「新年交歓会」になります。

皆さまにお目にかかれる機会となりますので、当日お会いできることを事務局一同、心から楽しみにしております。新しい年の始まりに、笑顔あふれるひとときとなるよう準備を進めてまいります。

「新年交歓会」の様子は、次号2026年1月号で特集致します。

蒸し暑さが残る折、無理をせず、時には高い空に向かって深呼吸をしながら、健やかに日々をお過ごしください。秋の訪れとともに、皆さまにとって実り多い季節となりますよう、お祈りしております。



【表紙デザイン 作家・作品プロフィール】

山本 暁

TOPPANグラフィックコミュニケーションズ株式会社 デザインセンター所属。

多摩美術大学美術学部 グラフィックデザイン学科卒業後、凸版印刷(株)入社、現在に至る。表紙デザインは、日本印刷産業連合会を構成する10団体を10の図形で表し、躍動や革新など印刷業界の未来への発展を表現した。10月号のイメージは「輝く」。

発行日 2025年10月29日

発行人 緒方 宏俊

発行所 一般社団法人 日本印刷産業連合会

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8

日本印刷会館 8階

TEL 03 (3553) 6051

FAX 03 (3553) 6079

<https://www.jfpi.or.jp>

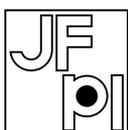


GREEN PRINTING JFPI
P-B10029

この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



一般社団法人 日本印刷産業連合会
Japan Federation of Printing Industries
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館内
TEL 03-3553-6051 FAX 03-3553-6079
<https://www.jfpi.or.jp/>

